

演習追加問題(古代オリエント)

【1】 関西学院大学 文学部

次の①～⑩の文中の下線部が誤っているものにはその記号に、すべての下線部に誤りがない場合はeにマークしなさい。

- ① メソポタミア文明においては、a ジググラトと呼ばれる聖塔が建てられ、天文学・数学・暦法などの学問が盛んで、b 楔形文字、c 太陽暦、d 六十進法が使われた。
- ② 紀元前 1900 年頃、セム系のa アムル人がバビロンを首都とするb 新バビロニア王国を形成し、c ハンムラビ王の時に全メソポタミアを統一した。彼が定めた法典は「目には目を、歯には歯を」というd 復讐法の原則に立つものであった。
- ③ エジプト古王国は下エジプトのa テーベを都とし、b クフ王などのファラオたちはc ギザなどに巨大なピラミッドを建設した。紀元前 21 世紀からは中王国が栄えたが、その末期にはシリア方面から遊牧民d ヒクソスの侵入を受けた。
- ④ エジプト新王国のa アメンホテプ 4 世はb アモンを唯一神とし、都をc テル＝エル＝アマルナに移した。この時代には、独特のd 写実的な美術が栄えることになった。
- ⑤ 紀元前 1200 年頃に「海の民」の侵攻によりa ヒッタイト王国が滅亡すると、シリアではb アラム人がc ダマスカスを中心に内陸での中継貿易で活躍する一方、d フェニキア人はシドンなどを拠点に海上貿易で栄えた。e
- ⑥ 紀元前 10 世紀後半、a ソロモン王の死後にヘブライ人の王国は南北に分裂した。その後、南のb ユダ王国はc アッシリアに征服され、その住民の多くがバビロンへ連行された。長い苦難を経験した人々はd アケメネス朝により解放された。
- ⑦ 紀元前 7 世紀に全オリエントを統一したアッシリアは、その過酷な支配のために長続きせず滅び、a エジプト、b リディア、c ミタンニ、d メディアの 4 王国が分立した。
- ⑧ 紀元前 6 世紀中頃、ペルシア人のa キュロス 2 世がアケメネス朝を建国し、その子b カンビュセス 2 世のもとで全オリエントの再統一が成し遂げられた。また、この国ではc 最後の審判をとなえるd ゴロアスター教が信仰された。e
- ⑨ アケメネス朝のダレイオス 1 世は、都a スサの造営に着手する一方、小アジアのb サルデスへと通じる「王の道」を建設した。また、各州をc サトラップたちに統治させるとともに、王直属の監察官を巡回させて彼らを監視した。「王の道」に面したベヒストゥーン碑文には、ダレイオス 1 世の事績が刻まれているが、これはイギリス人d ローリンソンによって解読された。
- スサはアッカド時代にはエラム民族の国家が生れ、その首都となったが、前 640 年頃アッシリア王アッシュールバニパルによって破壊された。しかし前 522 年からアケメネス朝ペルシアのダレイオス 1 世とその後継王たちがここを首都と定め、宮殿をはじめ都市が建設されて大いに栄えた。首都がペルセポリスに移ったあとも、冬宮、交易中心地として重んじられた。「スサの造営」という表現で誤りとしたが、微妙な問題だと思う。ダレイオス 1 世が王都ペルセポリスを造営したことを念頭に置いて問題が作成されていることは明白であるが、，，，。
- ⑩ 紀元前 30 世紀～紀元前 12 世紀に栄えたエーゲ文明の存在は、a シュリーマンがミケーネなどを、b エヴェンズがクレタ島のクノッスを発掘した結果として判明した。また、線文字のうちc クレタ文明のものである線文字 B をd ヴェントリスが解読した。

【2】 関西学院大学 総合政策学部

次の A～E の文中の下線部に関する問いに答え、記号にマークしなさい。

- A メソポタミアで最初の高い文化を形成した⁽¹⁾シュメール諸都市は、アッカド人により次々に征服された。そして前 24 世紀頃⁽²⁾この国王のもとで、メソポタミアにはじめての統一国家が実現された。この地の交易圏・文化圏が拡大したことも事実だが、この国王は機動力をもってする戦争でたちまちメソポタミアを席卷した。当時の碑文はいう。「この国王は 34 回の出征に勝利をおさめ、海の岸に至るまでのあらゆる城砦を砕いた。……エンリル(神々の長)の手は、この国王に敵対する者を許さなかった。毎日この国王の御前で 5 万 4 千の兵が食事をとった」と。しかしこの膨大な数の兵士を維持するための略奪的支配を 2 世紀以上続けることは不可能だった。
- B ヒクソスを追い出して成立したエジプト新王国は、馬と戦車の軍隊でシリアにまで進出し、ミタンニやヒッタイトと衝突することになる。前 13 世紀初頭ダマスカスの北方 80 キロメートルの⁽³⁾この地で、ついに⁽⁴⁾エジプトとムワタリ王率いるヒッタイト軍が戦端を開いた。この戦いは古代最大の戦いのひとつで、その戦術と戦闘隊形が判っている最古のものであるが、興味深いことに両軍とも

自軍の健闘をたたえ、それぞれに勝利を宣言・休戦したうえで講和を結んだ。これが現在確認できる最古の国際条約である。この後両者は姻戚関係を結び、エジプト側の司令官であった国王の長い治世の間には平和が続いた。

- C 前 10 世紀も中頃になるとヘブライ王国は⁽⁶⁾この国王のもとで隆盛をきわめることになった。そうした繁栄を伝える逸話が『旧約聖書』の「列王紀」である。この国王は「戦車用の馬の厩舎 4 万と騎兵 1 万 2 千を持っていた」という。彼こそ、古代世界きっての大馬主だったのではないか。しかしこの国王没後、ヘブライ王国はイスラエル王国とユダ王国に分裂し、後者は新バビロニアに滅ばされ、⁽⁶⁾バビロン捕囚の悲運をなめた。
- D 前 2 千年紀初め以来、北メソポタミアで勢力を強めてきたアッシリアは前 7 世紀にはエジプトをも併合して、史上はじめて全オリエントを支配する帝国を樹立した。アッシリアは騎馬を軍勢力として効率的に組織することができた。そのために、この帝国には馬に関する石のレリーフが多くみられる。この場合、馬は勝利と支配の象徴だった。⁽⁷⁾アッシュール＝バニパルの宮殿から出土したレリーフについて、ある解説は「シャマッシュ＝シュム＝ウキンに勝って意気揚々としたアッシュール＝バニパル王は戦車の上に立ち、彼の馬はきらびやかな装飾品で飾り立てられ、背後には妻が従い、そして陽光から守るために王にさしかけられた傘。こうした壮麗さ以上のものを、果たして描き得るであろうか」といっている。しかしこの王の死後、アッシリア帝国はその過酷な支配で反感を買ひ、そのために、⁽⁸⁾4 王国に分裂してしまう。
- E アッシリアの後を受けてオリエントの統一を確立したのが、ペルシア人である。彼らはアケメネス朝のもとで、前 6 世紀、しだいに勢力を広げ、エジプトからインダス川流域におよぶ大帝国を建設した。なかでもダレイオス 1 世の時、この帝国は行政・財政制度と⁽⁹⁾交通網を整備し、服属する民族の慣習も尊重して古代オリエントの専制支配を完成させた。一方、帝国形成とその維持に大きく貢献したのは、ペルシアのすぐれた馬事文化の伝統であった。すなわち征服戦争では騎馬の機動戦術によって、帝国維持の面では駅伝馬のネットワークによってである。カンビュセス 2 世死後の混乱のなかから⁽¹⁰⁾ダレイオス 1 世が誕生した経緯について、以下のような逸話が残されている。王位継承者 7 人を明け方に騎乗させ、最初にその騎乗馬がいなかった者に王位継承の資格が与えられることになっていた。未来の新王の馬がいなかった。これは馬丁の策のおかげであった。石の浮彫像を作らせることが新王の最初の命令となった。その碑銘には、「ヒュスタスパスが^{いっし}一子、馬と馬丁の功績によってペルシアの王位を得たり」と刻まれている。

[問 い]

- (1) シュメール諸都市の文化に直接関係のない事項はどれか。
- | | | |
|----------|-------------|--------|
| a. ジググラト | b. 楔形文字 | c. 太陽暦 |
| d. 六十進法 | e. 1 週 7 日制 | |
- (2) この国王はどれか。
- | | | |
|------------------|-----------|---------|
| a. サルゴン 1 世 | b. ギルガメシュ | c. オシリス |
| d. ティグラトピレセル 3 世 | e. ハンムラビ | |
- (3) この地はどれか。
- | | | |
|---------|---------|---------|
| a. スミルナ | b. イェリコ | c. ロゼッタ |
| d. ティルス | e. カデシュ | |
- (4) この時のエジプト国王はどれか。
- | | | |
|-------------|---------------|------------|
| a. トトメス 3 世 | b. アメンホテプ 4 世 | c. ツタンカーメン |
| d. ラメス 2 世 | e. クフ | |
- (5) この国王に関する記述で誤りを含むものはどれか。
- | | |
|------------------|------------------|
| a. 先王はダヴィデである。 | b. 王国第 3 代の王である。 |
| c. リディア遠征を行った。 | d. 首都はイェルサレムだった。 |
| e. ヤハウエの神殿を建築した。 | |
- (6) バビロン捕囚を解いた勢力はどれか。
- | | | |
|------------|-----------|---------|
| a. アケメネス朝 | b. アッシリア | c. メディア |
| d. エジプト新王国 | e. セレウコス朝 | |

- (7) アッシュール＝バニパルが大図書館を建設したティグリス川中流の場所はどこか。
- a. エクバタナ b. バビロン c. ニネヴェ
- d. ベヒストゥーン e. アッシュール
- (8) この4王国のなかで、前7世紀にはじめて貨幣の鋳造が行われたのはどれか。
- a. リディア b. メディア c. カルデア
- d. ペルガモン e. エジプト
- (9) ヘロドトスが「王の道」と呼んだ国道を早馬で駆け抜ければ、首都のひとつスサからイオニアの州都まで1週間程で到達できたという。イオニアの州都はどこか。
- a. ビザンティオン b. アンティオキア c. サルデス
- d. アルベラ e. シラクサ
- (10) ダレイオス1世と直接関係のない事項はどこか。
- a. ペルセポリス造営 b. サトラップ任命 c. ペルシア戦争開始
- d. 金・銀貨鋳造 e. ゾロアスター教弾圧

【3】 成蹊大学 文学部

次の文章を読み、設問(1)～(10)に対する答えを a ～ e から 1 つ選んで、その記号を所定欄にマークしなさい。

アーリヤ人がイラン高原をこえてインドへ侵入してきたとき、もっとも主要な敵対者となった原住民は 1 であった。1 は、その言語とインダス文字との関連の深さから、インダス文明を担った民族である可能性が指摘されている。彼らは、アーリヤ人侵入の際には全インドに広がって定住しており、森林を開拓して耕地や牧場をもち、部落の周囲に城砦を築き、青銅製の道具を用い、黄金の装飾をも衣服につける階層をもつ民族であったと考えられている。そのような文化を持つ民族でありながら、アーリヤ人に侵入され征服されてしまったのは、アーリヤ人が彼らの持っていない 2 を持っていたからであった。

3 アーリヤ人は征服者とはいえ、文化を持つ原住民に対する警戒感は強く、それは差別意識と結びついた。聖典『リグ・ヴェーダ』には、アーリヤ人が神々の力を借りて退治する悪魔の姿が描かれているが、その悪魔は、皮膚の色が黒く喋り方も異様であると表現されて恐れられており、これは原住民への言及と考えられている。階層身分のことを指す 4 という言葉は、もともとは色を意味し、皮膚の色の白かったアーリヤ民族が皮膚の色の異なる異民族のことをさす言葉だったが、アーリヤ人がガンジス河を取り囲む大地に 5 を確立していくにつれて、皮膚の色とは無関係に、厳しく分断された4つの階層身分を意味するようになった。これがのちのカースト制度の基礎である。広大なインドを征服したアーリヤ人であるが、アーリヤ民族全体の統率者も、民族全体にわたる政治的統一も存在しなかった。しかしさまざまな危機や異民族への攻撃という場合には、それぞれの部族が同盟関係を結び、目的を達していた。それを可能にしたものは、政治統合ではなく、むしろ宗教に対する共同の強い自覚であった。だからこそバラモンは、たんに宗教的権威であるだけではなく政治権力と不可分の存在であり、したがってこの社会の最上位に君臨する階層となったのである。しかし、紀元前500年前後になると、バラモン教への批判がひろがり、時代に呼応する新しい宗教がつぎつぎに生まれた。たとえばヴァルダマナーがひらいたジャイナ教、ガウダマ＝シッダールタがひらいた7仏教などである。さらに、この頃には二大叙事詩『マハーバーラタ』と『ラーマヤナ』の原形がつくられた。

インド初の統一国家となるのは、強大な軍隊と官僚組織を持つにいたったマウリヤ朝であった。第3代のアショーカ王の時代にマウリヤ朝は最盛期に達し、その領土は南端を除く大部分のインド亜大陸におよんだ。しかしアショーカ王は、9紀元前3世紀前半に激戦のうえ征服に成功した国を訪れた際、その戦禍に衝撃をうけ、それを機に武力による統一政策を転換してしまう。以後、10王は仏教に深く帰依し、仏教精神にもとづく統治をめざし、社会事業を進め、さらに仏教の保護と国外への布教にもつとめた。王は仏教信仰にもとづく政治理想の実現のために、周辺諸国の王のもとへ使節を派遣した。使節の赴いた諸国では病院や薬草園などがつくられ、それを聞いたアショーカ王は大変喜んだという。

〈設問〉

- [illegible]

(2) 2にはいる言葉として適切なものは、次のうちどれか。

- a. 馬と戦車
- b. 戦車と火薬
- c. 火薬と馬
- d. 火薬と組織された重装歩兵
- e. 戦車と組織された重装歩兵

(3) 下線部3に関連した事柄の説明として、適切でないものは次のうちどれか。

- a. インド＝アーリヤ系諸民族とヨーロッパ系諸民族との、深い民族的・文化的関係が立証されたのは、グリム兄弟がおこなった言語研究がきっかけであった。
- b. イラン高原からインド北西部に移住するとき、アーリヤ人はカイバル峠を越えた。ここは古くから交通の要衝であり、大乘仏教が北方へ伝えられるときにもこのルートを通った。
- c. 「アーリヤ」とは「気高い、高貴な」という意味であり、彼らが自らを称して使っていた。
- d. インドを中心にみられる牛を神聖視する風習は、アーリヤ人の風習が現在に受け継がれたものである。
- e. 『リグ・ヴェーダ』は、アーリヤ人の自然崇拜が賛歌や儀礼集というかたちでまとめられたものであり、数種類ある『ヴェーダ』のなかで最後に集大成されたものである。

(4) 4にはいる言葉として適切なものは、次のうちどれか。

- a. ヴァルナ
- b. カスタ
- c. カルマ
- d. ジャイナ
- e. ジャーティ

(5) 5にはいる言葉として適切なものは、次のうちどれか。

- a. 漁労社会
- b. 巡礼都市
- c. 商業都市
- d. 農耕社会
- e. 遊牧社会

(6) 下線部6に関する説明として、もっとも適切なものは次のうちどれか。

- a. バラモンは他の階層に重税を課したため、不安や反発がいつきに高まったが、新しい宗教はこの苦難に耐える価値を説いたので社会的騒乱は抑止された。
- b. 新しい宗教は、バラモンの祭式が形式主義に陥って形骸化したことを批判し、勢力を拡大しつつあった商人や職人たちに歓迎された。
- c. バラモン教は厳しい身分的宗教戒律を定めていたため、新しい宗教が登場するとバラモン内部からもその支持者が多く出た。
- d. 新しい宗教は、民衆から離れていたバラモン教の精神を生活実践のなかにとりいれる試みを含んでいた。
- e. バラモン教は異民族が次第に増える社会に対応する術を失っていたが、新しい宗教は民族を問わないため、アーリヤ人以外の流入民族がその主な担い手となった。

(7) 下線部7に関連する記述として、もっとも適切なものは次のうちどれか。

- a. 個人的な解脱という目的から万民の救済を目的とする仏教へと変化して成立したのが、小乗仏教である。ナーガールジュナは小乗仏教の理論書『中論』を著した。
- b. 仏陀とは悟りを開いた者のことを意味し、菩薩とは、厳しい修行中の者を見守る仏の慈悲の心を意味している。菩薩は民間への布教に大きな役割を果たした。
- c. 義浄は、グプタ朝が建立したナーランダー寺院で学び、インド、南海を経て帰国したが、この途中、スマトラ島で当時まだ造営中のボロブドゥールに立ち寄った。
- d. 上座部仏教は、形式化しがちな戒律に厳しく縛られることなく、長老たちの知恵を伝承することによって救済の道を模索した仏教分派である。スリランカで発展した。
- e. ラマ教とは、伝播した大乘仏教とチベット固有の土着宗教とが融合したものである。吐蕃の国教となるがその末期には衰退し、再び元朝時代に国家の保護をうけ栄えた。

(8) 下線部8に関する記述として、もっとも適切なものは次のうちどれか。

- a. マガダ国の王(→王子)ラーマが、奪われた愛妻の救出をする英雄叙事詩である。
- b. 商業が発展した時代状況を反映して、登場人物はすべてヴァイシャ(→クシャトリア)である。

c. 戦禍の悲しみをテーマにした四行詩集であり、現世の無常を説いたものである。

d. 仙人の娘と若き王が恋を成就させるまでの冒険物語である。

e. サンスクリット語で書かれ、4世紀ころに現在の形式がととのった。

(9) 下線部9の国は、次のうちどれか。

a. アンガ国

b. カピラ国

c. カリंगा国

d. クル国

e. コーサラ国

(10) 下線部10に関連する記述として、もっとも適切なものは次のうちどれか。

a. アショーカ王は、釈迦の没後はじめて、釈迦の教説を集め編集する「仏典結集」をおこなった。

b. アショーカ王は、ストゥーパとよばれる石柱に、ダルマの理想政治にもとづく自らの勅令を刻ませた。

c. アショーカ王は、仏教の理想を伝える使節を漢の武帝のもとに送った。

d. アショーカ王は、自らの王子を布教のためにスリランカに派遣し、その地の仏教化に成功した。

e. アショーカ王の死後も、マウリヤ朝は約2世紀のあいだ存続した。

【4】 成城大学 経済学部

つぎの文章を読んで、後の設問に答えよ。

古代インドにおいて成立した仏教とヒンドゥー教はともに、インド北部においてはるかに以前から有力な宗教であったa バラモン教の影響のもとに形成された。(A) a 教の成立にかかわる文化的伝統は、インド＝ヨーロッパ系の b アーリヤ 人が、前 1500 年頃、中央アジアからパンジャブ地方に侵入して住みつき、さらに前 1000 年頃以降、東のガンジス川流域へと進出する歴史の長い時間のなかではぐまれてきた。その長期にわたる民族移動の過程で定住も進み、農業生産が向上して余剰が増大し各地に都市国家が形成される。それにともない、

b 人支配層が先住民などを階級的に支配する社会構造も確立されて、今日にいたるまでの(B) インド社会に特有の複雑で固定的な身分秩序の基礎がかたちづくられることになる。

前 500 年頃の c ガウタマ=シッダータ を開祖とする仏教の発祥には、(C) そうした階級・階層社会にたいする批判の一面もみられる。それにたいして、その後に隆盛するヒンドゥー教は a 教 を直接の母体としその伝統を継承しつつ、さらにインドの (D) 民間信仰 や仏教の要素をとりいれながら発展し、インド的な身分秩序の維持に即応する側面が濃厚である。ヒンドゥー教は、とりわけ 4 世紀に成立した d グプタ 朝の時代から盛んになる。ところが仏教は、その頃からヒンドゥー教に吸収されるようなかたちで、(E) インドにおいてはしだいに衰退し、後のインドのイスラム化の過程で決定的な打撃を被ることになる。

問1 文中の空欄 a～d を埋めるのに最も適切な語句を記せ(同一記号は同一語句)。

問2 下線部(A)について、

(1) この宗教の神々への讃歌を記した文献から当時の文化をうかがい知ることができる。その神々への讃歌の文献を総称して何と呼ぶか。 ヴェーダ

(2) 上記(1)に関連して、この宗教に独自の哲学的思索について記した「奥義書」とも訳される聖典は何か。

ウパニシャッド

(3) 上記(1)の文献の記述に使用された言語から発達して洗練され、インドの古典の表記に古代から用いられてきた、梵語ともいわれるインド＝ヨーロッパ語系の言語は何か。 サンスクリット語

問3 下線部(B)について、

(1) この身分秩序の基軸として、四つの「種姓」と訳される階級構造がある。種姓にあたるインドの言葉をカタカナで記せ。

ヴァルナ

(2) 上記(1)に関して、四つの種姓のうち、下層の被征服民の種姓を何と呼ぶか。 シュードラ

(3) 上記(1)の種姓に、さらにジャーティといわれる多様な出身集団が組み合わさり構成されたインド固有の身分秩序をポルトガル語起源の言葉で一般に何と呼ぶか。 カースト

問4 下線部(C)について,

仏教の発祥と同じ頃に、これと同様の批判的な観点をもって登場し、しかも、今日のインドにも約 400 万人の信者がいる、不殺生・菜食主義の宗教は何か。 ジャイナ教

問5 下線部(D)について,

民間信仰をとり入れることにより、さまざまな神々が生み出され民衆に信仰されることになったが、なかでもヒンドゥー教の最高神とされる二つの神々の名前を記せ。 シヴァ神・ヴィシュヌ神

問6 下線部(E)について,

(1) 仏教は、インドにおいては衰退していったが、その後も、一方では中国やチベットや日本で、他方では東南アジアなどで盛んに信仰されるようになる。そのうち前者にあたる、おもにインド以北の地域で信仰されるようになった仏教を総称して何と呼ぶか。 大乘仏教

(2) 上記(1)の、北方に伝わった仏教の教義について思索してまとめ、中国や日本の思想にも影響をもたらし、日本の仏教界でも南都六宗・天台宗・真言宗の「八宗の祖師」と仰がれた、2～3世紀の南インド出身の仏教理論家は誰か。 ナーガールジュナ

演習追加問題(古代インド)

【1】 成蹊大学 文学部

次の文章を読み、設問(1)～(10)に対する答えをa～eから1つ選んで、その記号を所定欄にマークしなさい。

アーリヤ人がイラン高原をこえてインドへ侵入してきたとき、もっとも主要な敵対者となった原住民は **1 ドラヴィダ人** であった。

1 は、その言語とインダス文字との関連の深さから、インダス文明を担った民族である可能性が指摘されている。彼らは、アーリヤ人侵入の際には全インドに広がって定住しており、森林を開拓して耕地や牧場をもち、部落の周囲に城砦を築き、青銅製の道具を用い、黄金の装飾をも衣服につける階層をもつ民族であったと考えられている。そのような文化を持つ民族でありながら、アーリヤ人に侵入され征服されてしまったのは、アーリヤ人が彼らの持っていない **2 馬と戦車** を持っていたからであった。

³アーリヤ人は征服者とはいえ、文化を持つ原住民に対する警戒感は強く、それは差別意識と結びついた。聖典『リグ・ヴェーダ』には、アーリヤ人が神々の力を借りて退治する悪魔の姿が描かれているが、その悪魔は、皮膚の色が黒く喋り方も異様であると表現されて恐れられており、これは原住民への言及と考えられている。階層身分のことを指す **4 ヴァルナ** という言葉は、もともとは色を意味し、皮膚の色の白かったアーリヤ民族が皮膚の色の異なる異民族のことをさす言葉だったが、アーリヤ人がガンジス河を取り囲む大地に **5 農耕社会** を確立していくにつれて、皮膚の色とは無関係に、厳しく分断された4つの階層身分を意味するようになった。これがのちのカースト制度の基礎である。広大なインドを征服したアーリヤ人であるが、アーリヤ民族全体の統率者も、民族全体にわたる政治的統一も存在しなかった。しかしさまざまな危機や異民族への攻撃という場合には、それぞれの部族が同盟関係を結び、目的を達していた。それを可能にしたものは、政治統合ではなく、むしろ宗教に対する共同の強い自覚であった。だからこそバラモンは、たんに宗教的権威であるだけではなく政治権力と不可分の存在であり、したがってこの社会の最上位に君臨する階層となったのである。しかし⁶紀元前500年前後になると、バラモン教への批判がひろがり、時代に呼応する新しい宗教がつぎつぎに生まれた。たとえばヴァルダマーナがひらいたジャイナ教、ガウダマ＝シッダールタがひらいた⁷仏教などである。さらに、この頃には二大叙事詩『マハーバーラタ』と⁸『ラーマヤナ』の原形がつくられた。

インド初の統一国家となるのは、強大な軍隊と官僚組織を持つにいたったマウリヤ朝であった。第3代のアショーカ王の時代にマウリヤ朝は最盛期に達し、その領土は南端を除く大部分のインド亜大陸におよんだ。しかしアショーカ王は、⁹紀元前3世紀前半に激戦のうへ征服に成功した国を訪れた際、その戦禍に衝撃をうけ、それを機に武力による統一政策を転換してしまう。以後、¹⁰王は仏教に深く帰依し、仏教精神にもとづく統治をめざし、社会事業を進め、さらに仏教の保護と国外への布教にもつとめた。王は仏教信仰にもとづく政治理想の実現のために、周辺諸国の王のもとへ使節を派遣した。使節の赴いた諸国では病院や薬草園などがつくられ、それを聞いたアショーカ王は大変喜んだという。

<設問>

(1) **1** が、のちに樹立する王朝として適切なものは、次のうちどれか。

- | | |
|-----------------|--------------|
| a. クシャーナ朝 | b. シャイレーンドラ朝 |
| c. チョーラ朝 | d. ナンダ朝 |
| | e. パガン朝 |

ドラヴィダ人は、北インドから伝わった諸制度を採用しつつ、大小多数の王国を建設してきた。南インドに興亡した諸王朝の中でも、9世紀中ごろタミル地方に興ったチョーラ朝がとくに名高い(～13世紀)

(2) **2** にはいる言葉として適切なものは、次のうちどれか。

- | | |
|-----------------|-----------------|
| a. 馬と戦車 | b. 戦車と火薬 |
| c. 火薬と馬 | d. 火薬と組織された重装歩兵 |
| e. 戦車と組織された重装歩兵 | |

(3) 下線部3に関連した事柄の説明として、適切でないものは次のうちどれか。

- | |
|---|
| a. インド＝アーリヤ系諸民族とヨーロッパ系諸民族との、深い民族的・文化的関係が立証されたのは、グリム兄弟がおこなった言語研究がきっかけであった。 |
| b. イラン高原からインド北西部に移住するとき、アーリヤ人はカイバル峠を越えた。ここは古くから交通の要衝であり、大乘仏教が北方へ伝えられるときにもこのルートを通った。 |
| c. 「アーリヤ」とは「気高い、高貴な」という意味であり、彼らが自らを称して使っていた。 |
| d. インドを中心にみられる牛を神聖視する風習は、アーリヤ人の風習が現在に受け継がれたものである。 |

e. 『リグ・ヴェーダ』は、アーリヤ人の自然崇拜が賛歌や儀礼集というかたちでまとめられたものであり、数種類ある『ヴェーダ』のなかで最後に集大成されたものである。

(4) 4 にはいる言葉として適切なものは、次のうちどれか。

- a. ヴァルナ b. カスタ c. カルマ d. ジャイナ
e. ジャーティ

(5) 5 にはいる言葉として適切なものは、次のうちどれか。

- a. 漁労社会 b. 巡礼都市 c. 商業都市 d. 農耕社会
e. 遊牧社会

(6) 下線部6に関する説明として、もっとも適切なものは次のうちどれか。

- a. バラモンは他の階層に重税を課したため、不安や反発がいきなり高まったが、新しい宗教はこの苦難に耐える価値を説いたので社会的騒乱は抑止された。
- b. 新しい宗教は、バラモンの祭りが形式主義に陥って形骸化したことを批判し、勢力を拡大しつつあった商人や職人たちに歓迎された。
- c. バラモン教は厳しい身分的宗教戒律を定めていたため、新しい宗教が登場するとバラモン内部からもその支持者が多く出た。
- d. 新しい宗教は、民衆から離れていたバラモン教の精神を生活実践のなかにとりいれる試みを含んでいた。
- e. バラモン教は異民族が次第に増える社会に対応する術を失っていたが、新しい宗教は民族を問わないため、アーリヤ人以外の流入民族がその主な担い手となった。

(7) 下線部7に関連する記述として、もっとも適切なものは次のうちどれか。

- a. 個人的な解脱という目的から万民の救済を目的とする仏教へと変化して成立したのが、小乗仏教である。ナーガールジュナは小乗仏教の理論書『中論』を著した。
- b. 仏陀とは悟りを開いた者のことを意味し、菩薩とは、厳しい修行中の者を見守る仏の慈悲の心を意味している。菩薩は民間への布教に大きな役割を果たした。
- c. 義浄は、グプタ朝が建立したナーランダー寺院で学び、インド、南海を経て帰国したが、この途中、スマトラ島で当時まだ造営中のボロブドゥールに立ち寄った。
- d. 上座部仏教は、形式化しがちな戒律に厳しく縛られることなく、長老たちの知恵を伝承することによって救済の道を模索した仏教分派である。スリランカで発展した。
- e. ラマ教とは、伝播した大乘仏教とチベット固有の土着宗教とが融合したものである。吐蕃の国教となるがその末期には衰退し、再び元朝時代に国家の保護をうけ栄えた。

(8) 下線部8に関する記述として、もっとも適切なものは次のうちどれか。

- a. マガダ国の王(→王子)ラマが、奪われた愛妻の救出をする英雄叙事詩である。
- b. 商業が発展した時代状況を反映して、登場人物はすべてヴァイシャ(→クシャトリア)である。
- c. 戦禍の悲しみをテーマにした四行詩集であり、現世の無常を説いたものである。『マハーバーラタ』の内容
- d. 仙人の娘と若き王が恋を成就させるまでの冒険物語である。『シャクンタラー』の内容
- e. サンスクリット語で書かれ、4世紀ころに現在の形式がととのった。

(9) 下線部9の国は、次のうちどれか。

- a. アンガ国 b. カピラ国 c. カリंगा国 d. クル国 e. コーサラ国

(10) 下線部10に関連する記述として、もっとも適切なものは次のうちどれか。

- a. アショーカ王は、釈迦の没後はじめて、釈迦の教説を集め編集する「仏典結集」をおこなった。
- b. アショーカ王は、ストゥーパとよばれる石柱に、ダルマの理想政治にもとづく自らの勅令を刻ませた。
- c. アショーカ王は、仏教の理想を伝える使節を漢の武帝のもとに送った。
- d. アショーカ王は、自らの王子を布教のためにスリランカに派遣し、その地の仏教化に成功した。
- e. アショーカ王の死後も、マウリヤ朝は約2世紀のあいだ存続した。

【2】 成城大学 経済学部

つぎの文章を読んで、後の設問に答えよ。

古代インドにおいて成立した仏教とヒンドゥー教はともに、インド北部においてはるかに以前から有力な宗教であった **a バラモン** 教の影響のもとに形成された。(A) **a** 教の成立にかかわる文化的伝統は、インド＝ヨーロッパ系の **b アーリヤ** 人が、前 1500 年頃、中央アジアからパンジャブ地方に侵入して住みつき、さらに前 1000 年頃以降、東のガンジス川流域へと進出する歴史の長い時間のなかではぐくまれてきた。その長期にわたる民族移動の過程で定住も進み、農業生産が向上して余剰が増大し各地に都市国家が形成される。それにともない、

b 人支配層が先住民などを階級的に支配する社会構造も確立されて、今日にいたるまでの (B) インド社会に特有の複雑で固定的な身分秩序の基礎 がかたちづくられることになる。

前 500 年頃の **c ガウタマ=シッダールタ** を開祖とする仏教の発祥には、(C) そうした階級・階層社会にたいする批判の一面もみられる。それにたいして、その後に隆盛するヒンドゥー教は **a** 教を直接の母体としその伝統を継承しつつ、さらにインドの (D) 民間信仰 や仏教の要素をとりいれながら発展し、インド的な身分秩序の維持に即応する側面が濃厚である。ヒンドゥー教は、とりわけ 4 世紀に成立した **d グプタ** 朝の時代から盛んになる。ところが仏教は、その頃からヒンドゥー教に吸収されるようなかたちで、(E) インドにおいてはしだいに衰退し、後のインドのイスラム化の過程で決定的な打撃を被る ことになる。

問 1 文中の空欄 a～d を埋めるのに最も適切な語句を記せ(同一記号は同一語句)。

問 2 下線部(A)について、

- (1) この宗教の神々への讃歌を記した文献から当時の文化をうかがい知ることができる。その神々への讃歌の文献を総称して何と呼ぶか。 **ヴェーダ**
- (2) 上記(1)に関連して、この宗教に独自の哲学的思索について記した「奥義書」とも訳される聖典は何か。
ウパニシャッド
- (3) 上記(1)の文献の記述に使用された言語から発達して洗練され、インドの古典の表記に古代から用いられてきた、梵語ともいわれるインド＝ヨーロッパ語系の言語は何か。 **サンスクリット語**

問 3 下線部(B)について、

- (1) この身分秩序の基軸として、四つの「種姓」と訳される階級構造がある。種姓にあたるインドの言葉をカタカナで記せ。
ヴァルナ
- (2) 上記(1)に関して、四つの種姓のうち、下層の被征服民の種姓を何と呼ぶか。 **シュードラ**
- (3) 上記(1)の種姓に、さらにジャーティといわれる多様な出身集団が組み合わさり構成されたインド固有の身分秩序をポルトガル語起源の言葉で一般に何と呼ぶか。 **カースト**

問 4 下線部(C)について、

仏教の発祥と同じ頃に、これと同様の批判的な観点をもって登場し、しかも、今日のインドにも約 400 万人の信者がいる、不殺生・肉食主義の宗教は何か。 **ジャイナ教**

問 5 下線部(D)について、

民間信仰をとりいれることにより、さまざまな神々が生み出され民衆に信仰されることになったが、なかでもヒンドゥー教の最高神とされる二つの神々の名前を記せ。 **シヴァ神・ヴィシュヌ神**

問 6 下線部(E)について、

- (1) 仏教は、インドにおいては衰退していったが、その後も、一方では中国やチベットや日本で、他方では東南アジアなどで盛んに信仰されるようになる。そのうち前者にあたる、おもにインド以北の地域で信仰されるようになった仏教を総称して何と呼ぶか。 **大乘仏教**
- (2) 上記(1)の、北方に伝わった仏教の教義について思索してまとめ、中国や日本の思想にも影響をもたらし、日本の仏教界でも南都六宗・天台宗・真言宗の「八宗の祖師」と仰がれた、2～3 世紀の南インド出身の仏教理論家は誰か。
ナーガールジュナ

演習追加問題(古代オリエントとユーラシアの帝国・古代インド)

【1】 京都大学

次の文章(A, B)の の中に最も適切な語句を入れ、下線部(1)～(12)について後の問に答えよ。

A 古代オリエントでは、大河の流域で、はやくから灌漑農業^{かんがい}が行われ、定住が進み、都市を中心とした文明が生まれた。

メソポタミアでは、前 3000 年頃からシュメール人が、 a ユーフラテス 川下流域のウル・ウルクなど様々な都市国家を築いた。

前 24 世紀頃これらの都市国家を征服してメソポタミアを統一したのがセム語族の b アッカド 人である。その後、同じセム語族の

(1) アムル人が強力な国家を建設し、前 18 世紀前半ハンムラビ王のとき全メソポタミアを支配下に置いた。この王国は、小アジアに建国したヒッタイトに滅ぼされた。一方、エジプトでは前 3000 年頃までに最初の統一王国が生まれ、古王国はメンフィス、中王国はテーベを中心に栄えた。新王国では、前 14 世紀半ば(2) アメンホテプ 4 世が改革に着手して遷都すると、新都を中心に写実的な

c アマルナ 美術が生まれた。エジプト王国とヒッタイト王国が弱体化すると、シリア・パレスティナでは、セム語族の 3 民族、

d アラム 人・フェニキア人・ヘブライ人が活動を開始した。(3) d アラム 人は前 1200 年頃からダマスカスを中心に内陸交易で活躍し、フェニキア人は沿岸部にシドン・ティルスなどの都市国家をつくり、地中海交易を独占した。前 7 世紀前半に古代オリエントはアッシリア王国により統一され、その崩壊後はイラン人が大帝国 e アケメネス 朝ペルシアを建設したが、前 4 世紀後半アレクサンドロス大王がこれを滅ぼした。アレクサンドロス大王没後、そのアジアの領土はセレウコス朝に受け継がれたが、前 3 世紀半ばにはバクトリアが独立し、またイラン系のパルティアが建国された。パルティアが f ティグリス 川河畔に築いたクテシフォンは、

パルティアおよびこれを倒した王朝の首都となった。ヘレニズム時代に最も繁栄したのがプトレマイオス朝で、首都 g アレクサンドリア には研究所・図書館が建設され、学問の中心となった。プトレマイオス朝が滅びローマ帝国が拡大すると、(4) アラビア半島やシリア砂漠のオアシス諸都市は隊商都市として繁栄した。7 世紀初めアラビア半島西部の交易路上の都市にイスラームが興った。預言者ムハンマドと第 3 代までの正統カリフは h メディナ を活動の拠点としたが、その後成立したウマイヤ朝はダマスカスを首都とした。(5) 8 世紀後半にアッバース朝が新都バグダードを築くと、この都市は、13 世紀後半カイロにとって代わられるまで、イスラーム世界の政治・経済・文化の中心として繁栄した。東方では 10 世紀にサーマーン朝の首都 i ブハラ , 11～12 世紀にはセルジューク朝下の主要なイラン都市においてイラン＝イスラーム文化が栄えた。

ブハラは古くからソグド人の商業で栄えた中央アジアのオアシス都市であり、サーマーン朝の首都となつてからは、ソグディアナ地方の政治的中心となった。

問

(1)

(7) この王国(王朝)の首都の名を記せ。 **バビロン**

(4) この首都の位置を、地図上の A～N の中から選べ。 **K**

(2) この新都の位置を、地図上の A～N の中から選べ。 **C**

(3) ダマスカスの位置を、地図上の A～N の中から選べ。 **F**

(4) シリア砂漠にあり、3 世紀後半には女王ゼノビアの統治下に繁栄し、現在その遺跡がユネスコ世界遺産として有名な隊商都市の名を記せ。 **パルミラ**

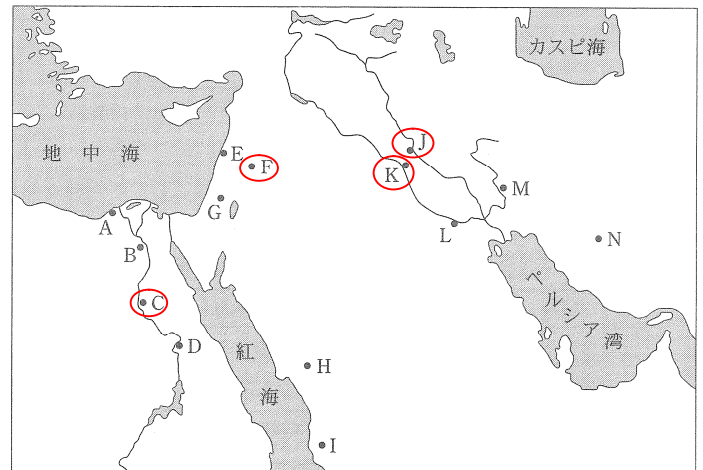
パルミラとはシリア砂漠の中央にあるオアシス都市であり、

現在シリアに属し、タドモルとよばれる。ヘブライ王国のソロモン王は

東方物資輸入の前線基地とした。紀元前 1 世紀ごろからシルク＝ロード上の中継交易都市となり、ローマ帝国の傘下に入って急速に発展した。

3 世紀後半に登場した女王ゼノビアはローマ帝国に独立を宣言したが、アウレリアヌス帝に攻略された。都市構造、政治形態、宗教、言語、美術を含む文化全般に、ギリシア、ローマ、ペルシア、エジプトなど東西文明の影響がみられる一方、シリアの伝統を継承するパルミラ独特の性格が認められる。遺跡の墓室から漢代の中国製絹織物が出土している。なお、パルミラの遺跡は 1980 年に世界遺産の文化遺産(世界文化遺産)として登録されたが、内戦により甚大な被害を受けたとして、2013 年には危機遺産リスト入りしている。

(5) バグダードの位置を、地図上の A～N の中から選べ。 **J**



(注：海岸線および河川の流路は現代のものである。)

B 16～17 世紀、ユーラシアの東西にふたつの帝国が形成され始める。やがて、ともに巨大化したのち、いずれも政体は変化したがる、国としての大きなかたまりは現在まで続いている。すなわち、ロシア連邦と中華人民共和国である。

それぞれの源流・発端は、ある意味でモンゴル帝国と無縁ではない。⁽⁶⁾ ルーシと呼ばれた地域は、ゆっくりとモンゴルからの自立姿勢を強め、やがて 16 世紀半ば、王となった j **イヴァン 4 世** はカザンとアストラハンのふたつのモンゴル国家を接収してヴォルガ流域を制圧し、⁽⁷⁾ そこから東方にむけて少数の兵を派遣した。かくて、17 世紀前半には太平洋岸にまで到達する。こののち、⁽⁸⁾ ロシアはアジアとヨーロッパにまたがる広大な勢力圏を保持することになる。なお、黒海に臨む一帯には、1783 年まで k **クリム＝ハン国** というモンゴル国家が存在し続けた。

クリム＝ハン国はキプチャク＝ハン国から自立してクリミア半島に建設されたムスリムの政権であり、1475 年以降はオスマン帝国の宗主権下に置かれ、18 世紀後半にロシアが奪いとった。

一方、アジア東方では、かつてモンゴル治下にあった^{だいこうあんれい}大興安嶺以東の l **女真 [女直]** 族のなかからヌルハチが台頭し、1616 年にはハンを称した。ついで、⁽⁹⁾ その子の m **ホンタイジ** は 1636 年に、本来は“主人筋”であった内モンゴル諸王侯に^{すいたい}推戴されて、大元国(ダイオン＝ウルス)をひきつぐ帝王として即位し、国号を大清国(ダイチン＝グルン)とした。これ以後、清朝は満蒙連合政権の性格を色濃くおびた。そして 1644 年に明朝が減ぶと、⁽¹⁰⁾ 清は入関して北京に入り、否応なく中華本土も包み込む多元帝国となっていく。 ⁽¹¹⁾ 康熙帝・ n **雍正帝** から乾隆帝にいたる三人の皇帝の治世は、外モンゴルおよび o **チベット** 仏教文化圏をめぐって、やはりモンゴル帝国以来の由緒をもつ p **ジュンガル** と激しく争いあう時代でもあった。

ジュンガルはオイラトの一部族とその国家であり、17～18 世紀中頃にかけてイリ地方からタリム盆地で強勢を誇った。ジュンガル部の首長ガルダンがオイラト諸部族を統合して外モンゴルから青海・チベットにも勢力を拡大したが、親征した康熙帝に敗れ、さらに 1755～58 年にかけての戦いで乾隆帝によって滅ぼされた。

⁽¹²⁾ 清朝は 1755 年から 59 年にかけて、ついにパミール以東を制圧し、現在に続く巨大な版図を樹立したが、1793 年に乾隆帝のもとを訪れた

q **マカートニー** が率いる使節団の目には、“虚飾の老大国”に見えていたのも一方の事実であった。

問

(6) ルーシを含むユーラシアの西北部を支配したこのモンゴル国家は何というか。 **キプチャク＝ハン国**

(7) 1582 年にシビル＝ハン国の首都を占領したのは誰か。 **イェルマーク**

イェルマークはコサックの首領であり、イヴァン 4 世からシベリア開発の許可を得た豪商ストロガノフ家につかえ、ウラル山脈をこえてシビル＝ハン国の首都シビルを占領し、ロシアのシベリア進出を進めた。

(8) ロシアは、ある山脈を境に、そこから東方の大地をながく属領視することになった。何という山脈か。 **ウラル山脈**

(9) このときの首都はどこか。 **瀋陽**

瀋陽(盛京)は中国東北地方の都市であり、1625 年ヌルハチが都とし、太宗が盛京と改称した。44 年北京に遷都としてからは副都となり、日本では奉天と呼んだ。

(10) このときの清朝の皇帝は誰か。 **順治帝**

(11) 康熙帝時代に国境画定をめぐってロシアとの間で結ばれた条約を何というか。 **ネルチンスク条約**

(12) このとき清軍の一部はパミールをこえて西南方にも進出し、アフマド＝シャーによって建国されてからまもない国家に接近した。何という王国か。 **アフガニスタン王国**

アフガニスタンは 1212 年にはチングス＝ハンの侵入を受け、モンゴルの支配下に入ったが、アフガニスタンは、アフガン系のカルト朝のもとに実質上独立した政権を維持した。14 世紀後半以降、ティムール朝、次いでサファヴィー朝の支配下に入ったが、1747 年ナーディール＝シャーが暗殺されると、アフマッド・シャー・ドゥラーニーがアフガニスタン全土を平定して王位につき、初めてアフガン人の政治的独立を達成した。

【2】京都大学

次の文章(A, B)を読み、 の中に最も適切な語句を入れ、下線部(1)～(14)について後の問に答えよ。解答はすべて所定の解答欄に記入せよ。

A インド亜大陸の文明は、インダス川流域の遺跡モエンジョ＝ダローやハラッパーを代表とするインダス文明の時代に始まる。この文明の衰退後、紀元前 1500 年頃からインド＝ヨーロッパ語系のアーリヤ人が、パンジャブ地方に進出し始めた。アーリヤ人の社会組織や宗教文化は『リグ＝ヴェーダ』をはじめとするヴェーダ文献の中に記録されている。インドに入ったアーリヤ人の宗教は⁽¹⁾

バラモン教であり、この教えが基盤となって、その後様々な要素が加わり、歴史的な変遷を経ながら、現代の **a ヒンドゥー** 教へとつながっている。前 6 世紀には、ブッダと尊称される **b ガウタマ＝シッダールタ** の説いた仏教と、マハーヴィーラの尊称を持つヴァルダマーナを始祖とする **c ジャイナ** 教が興った。このふたつの宗教はバラモン教の祭式やヴェーダ聖典の権威を否定した。

前 4 世紀に ⁽²⁾アレクサンドロス大王の東方遠征がインダス川流域にも及び、周辺に混乱が起こった後、⁽³⁾ガンジス川流域に首都をおいた **d マウリヤ** 朝が成立し、⁽⁴⁾アショーカ王の時代に最盛期を迎え、南端部を除くインド亜大陸の全域を支配した。アショーカ王は仏教に帰依し、法(ダルマ)に基づく統治を宣言する詔勅文を石柱や岩壁に刻ませた。アショーカ王の死後、**d マウリヤ** 朝は衰退し、紀元後 1 世紀に中央アジアのイラン系民族とされる **e クシャーナ** 族の勢力がインダス川流域にも及び、**e クシャーナ** 朝を建てた。この王朝は 2 世紀半ばの **f カニシカ** 王の時代が最盛期で中央アジアからガンジス川中流域までを支配し、仏教を庇護し、⁽⁵⁾首都プルシャプラを中心とする **g ガンダーラ** 地方でも、仏像が製作され始めた。4 世紀には **d マウリヤ** 朝と同じ都市に首都をおいたグプタ朝が勃興し、⁽⁶⁾チャンドラグプタ 2 世の時代に最盛期を迎え、北インド全域を支配した。グプタ朝の時代には仏教や **c ジャイナ** 教のほかに **a ヒンドゥー** 教が社会に浸透、定着し始め、バラモンの使用する言語であるサンスクリット語の文学作品や、バラモンの特権的な地位を強調した法典である **h マヌ法典** が、現在伝えられるような形にまとめられた。

グプタ朝の滅亡後、7 世紀前半にはヴァルダナ朝のハルシャ王が北インドを支配したが、その死後 ⁽⁷⁾北インドには強力な統一政権の存在しない状況が長く続いた。

a	b	c	d
e	f	g	h

問

- (1) バラモンは祭儀を司る祭司階級のことであるが、バラモンを最高位とし、クシャトリヤ(王侯、戦士)、ヴァイシャ(農民、牧畜民、商人)、シュードラ(隷属民)などによって構成される古代インドの身分制度を何というか。〔 **ヴァルナ** 〕
- (2) アレクサンドロスが前 334 年東方遠征に出発した目的は、東方のある国を討つためであった。当時その国を支配していた王朝の名を記せ。〔 **アケメネス朝** 〕
- (3) **d マウリヤ** 朝が首都をおいた都市の名を記せ。〔 **パータリプトラ** 〕
- (4) この王の時代にスリランカ(セイロン島)へ仏教の布教が行われたという伝説がある。スリランカからさらに東南アジアへ伝えられ、現代でもタイやミャンマー(ビルマ)などの国々に多くの信者を有している部派仏教は何と呼ばれるか。〔 **上座部仏教** 〕
- (5) インド中部において、より古い時期から仏像が製作された、ヤムナー河畔にある都市の名を記せ。〔 **マトゥラー** 〕
マトゥラーはヤムナー川南岸にあるインド北部の都市であり、ヴィシュヌ神の化身クリシュナの生誕地として知られる一方、赤砂岩を材料として、薄手の衣をまとった純インド風仏像の生産地である。
- (6) この王の時代に、中国の東晋からインドを訪れて旅行記を著した仏僧の名を記せ。〔 **法顕** 〕
- (7) 8 世紀の初め、西方からイスラーム教徒の軍隊がインダス川下流域のシンド(シンド)地方に侵攻した。当時、西アジアと北アフリカを支配していたアラブ人を中心とするイスラーム教徒の王朝の名を記せ。〔 **ウマイヤ朝** 〕
- B **i 後周** 王朝の殿前都点検として軍を掌握した趙匡胤は **i 後周** の恭帝から禅譲を受けて帝位につき、宋を建国した。唐末以来、地方に軍閥が割拠して中央の政権を弱体化させる状況がつづいていたので、彼は節度使の権限を縮小するほか、軍政を司る枢密院を強化して中央集権化をすすめた。10 世紀末から 11 世紀初頭にかけて、契丹は燕雲十六州を足場として南進をはかり、東にむかっては ⁽⁸⁾高麗に攻勢をかけた。 **j 興慶府** を都とした西夏も宋にとって脅威の一つであった。こうした情勢のもと、宋の政府は歳入の不足に苦しんだ。
- 興慶は西夏を建国した李元昊が興州を興慶府と改め、首都とした。のち中興府と改称し、当時の東西交通の要地となった。1227 年モンゴルにより攻略され、エリガヤ(額里合牙)、元朝には寧夏府路、明朝に寧夏衛、清朝に寧夏府と改められた。**
- 王安石は「万言書」として知られる改革案を提起して頭角をあらわし、神宗に登用されると制置三司条例司を設置して ⁽⁹⁾「新法」とよばれる一連の政策を実施した。
- 宋代には海上交易が盛んであり、政府は沿岸の港市に **k 市舶** 司を置いて貿易を管理し、収入の増大をはかった。 ⁽¹⁰⁾インド洋

方面からイスラームを信奉する商人が多く来航し，東南沿岸部に定住するものもいた。インド文化が優勢であった東南アジアでは港市を中心としてイスラームが浸透し，⁽¹¹⁾スマトラ島，ジャワ島，マレー半島にとどまらず，今日までスルタンの政権がつづいているブルネイが位置する

1	ボルネオ	[カリマンタン]
---	------	----------

 島やフィリピン諸島の沿岸部にムスリムの活動がひろがった。

ボルネオ島はインドネシアではカリマンタン島という。南シナ海の南端に位置する世界第3位の面積をもつ島である。15世紀以降，ブルネイ王国をはじめ諸王国がイスラーム化した。16世紀以降はヨーロッパ列強が侵入し，1841年にはイギリス人ジェームズ＝ブルックがサラワクに国家を樹立し，その間南半分にオランダが支配権を確立した。インドネシア独立後，カリマンタンの4州体制が確立し，サバ，サラワクは63年にマレーシア連邦に参加した。ブルネイは84年に独立した。

i	j	k	l
---	---	---	---

- 問 (8) 高麗の建国者は誰か。 [王建]
- (9) 「新法」のうち，差役(徭役)を銭納化するものの名を記せ。 [募役法]
- 募役法は中国，宋の王安石の新法の一つである。宋代には農村の租税徴収，治安維持，官物の輸送などに農民を徴発する差役法が実施され，中小地主や自作農の過重な負担となっていたが，その改善策として王安石が1070年から実施したものである。農民の力役の代りに免役銭を出させ，これを財源に政府が失業者を低賃金で雇う方法であるが，従来免役の特権をもっていた官戸や商人などからも約半額の助役銭を出させたので，これらの人々の反感を買うことになった。
- (10) 14世紀前半の北アフリカから中国におよぶ広大な地域の情報を記した旅行記の作者として知られる人物は誰か。 [イブン＝バットゥータ]
- (11) この島の北端近くの港市は，15世紀にその支配者がイスラームに改宗して中国とも交易した。この港市を中心とした国家の名を記せ。 [アチェ王国]
- アチェ王国はスマトラ北西端に15世紀末から20世紀初頭にかけて存在したイスラーム国家である。ポルトガル人のマラッカ占領後，これに敵対する近隣諸国の盟主となり，17世紀前半のイスカンダル＝ムダ王の時代が最盛期であった。その後衰退して19世紀には数州に分裂していたが，同世紀末に起ったアチェ戦争の結果，オランダの支配下に入った。